

森への入口と広場

私たちは、自然と校舎が一体となった森のキャンパスにふさわしい、自然と建築が調和した西門とバス待合所を提案します。



西門上空からキャンパス全体を俯瞰



ゲートを通り南側から見る



ゲートをキャンパス内から見る



通り北側より広場全体を見る



南より食堂側のバス待合を見る

I. 都市、キャンパス全体における計画 [大学の特色・キャンパスデザイン面からの提案]

■豊かな森と校舎が一体となった森の中のキャンパス [歴史・文化]

宮脇昭氏の「潜在自然植生」に基づく豊かな森に対して調和するよう白色で統一されたシンプルな校舎。この**自然と建築（人工物）が調和したキャンパス**こそ横浜国立大学の魅力です。本提案では、**これらを継承しながら、自然と建築（人工物）が呼応した提案**をおこないます。



■羽沢横浜国大駅からのアクセス・シーケンスと国大西バス停の観察と特徴 [アクセス]

1) 西門
羽沢横浜国大駅から西門までを歩くと、西門近くでキャンパスの界が200mほど続きます。西門は、境界をつくる界の延長ではなく、**界の上に生い茂る木々のように、まさに開かれたゲート**を提案します。



II. 人々の活動を喚起する開かれた場をつくり出す [開かれた大学として]

■キャンパスの豊かさを継承しつつ、地域に開かれた新しい居場所をつくり出す

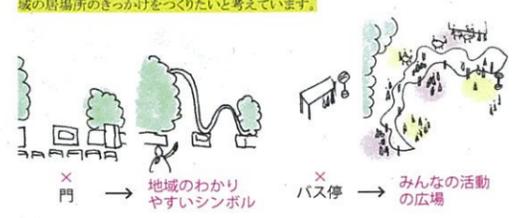
キャンパスデザインの2つの特徴を継承し発展させます。



III. わかりやすさとシンボル性 [記憶に残る開かれた場としての活用の提案]

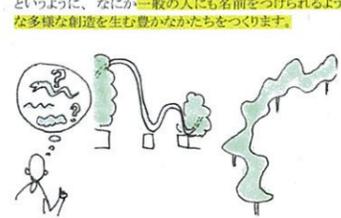
■用途や機能を限定しないということ [記憶に残る場をつくること]

本コンペティションでは、門とバスの待合場が求められている。しかし、本大学の理念やキャンパス全体、各門やバス停を見てまわり観察すると、**限定的な機能を与えてしまうと、その機能でのみしか利用されない不自由さが生まれていることに気がきました。**例えば、大学のメインストリートは、幅広く蛇行していることや木々の木陰などが場をつくり、キッチンカーや移動本屋が来たり、学祭のイベント等、その時々で、通りが彩られている。そこで、**私は、それぞれを以下のように読み替えて、キャンパスや地域の居場所のきっかけをつくりたいと考えています。**



■やさしいかたち・流れ・曲線・リズム [かたちもつ機能・空気感]

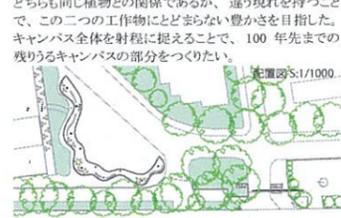
・ユニバーサルで均質な場ではなく、一度訪れたら、**記憶に残るような特徴的なものをつくり出す。**
・キャンパスはミニマルな四角い建物、直線だけでできた建物が、多い。一柔らかな曲線でやさしい居場所をつくり出す。
・シンボル性：門と呼ばれるよりも、あの「なみなみ」というように、**なにか一般の人にも名前をつけられるような多様な創出を生む豊かなかたちをつくり出す。**



IV. 100年残る居場所をつくる [大学の資産としての活用の提案]

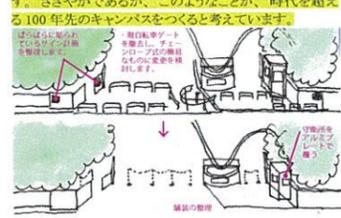
■ゲートと広場の屋根の関係性 [共通性と非共通性]

ゲートと広場の屋根が同時に、設計されるべきとき、この二つの関係性が強すぎると、別の意味・副産物が生まれてしまう。左記にあげたことは共通であるが、かたちは違う。例えば、屋根上の緑化は、キャンパスに見られる植物目録への共通性がある。ゲートは植物が生い茂ることで、木々があることで、ゲートが成立している。どちらも同じ植物との関係であるが、違う現れを持つことで、この二つの工作物にどまらない豊かさを目指した。キャンパス全体を対象に捉えることで、100年先までの残るキャンパスの部分をつくりたい。



■部分を整えるということ [キャンパス改修のふるまい・志し]

・自転車ゲートは、バイクの侵入を防ぐための目的だけのため、歩行者にとって、ストレスなくキャンパスを出入りすることを妨げている。**禁止することを優先するよりも、キャンパスに気持ちよく出入りする清々しさをつくりたい。**
・段差、舗装、サインなど、場当たりの改修ではなく、**部分を推し進めることで、「強」としてゲートと広場をつくり出す。ささやかながら、このように、時代を超える100年先のキャンパスをつくらなければならない。**



森の木々をつなぐ入口

私たちは、キャンパスの森、木々と手を繋ぐように、自然と建築が両方あることで生まれる森のキャンパスらしいやさしいゲートを提案します。



ゲートを正面より見る



ゲート正面より見る



ゲートを通り北側より見る



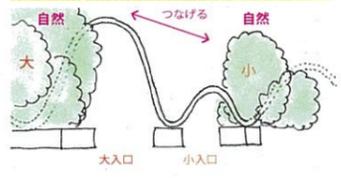
ゲートをキャンパス内より見る



ゲートを守衛所より見る

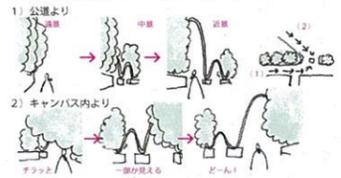
■自然と人工物の両方のできる森のキャンパスらしい新しいゲート【環境】

自然・人工物のどちらかだけではなく、里山のように、自然と人工物が調和し環境と一体となったゲートを提案します。森があるからこそできるこの門は、横浜国大のキャンパスらしい入口となり、「周辺の樹木は残し、できれば活かす」という本プロジェクトの要望を実現します。



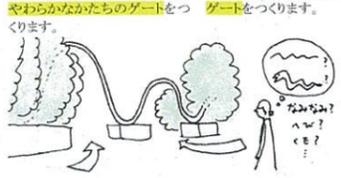
■遠景・中景・近景で、変化に富んだシーケンスをつくり出す【環境】

西門へのアクセスで特徴的なのは、入口の直前まで西門が見えないという点である。そこで、できるだけ近くに来た時に門の一部が認識でき、さらには、門の前に来た時により遠ったかたちで現れることで、キャンパスに出入りする楽しさをつくりたいと考えました。



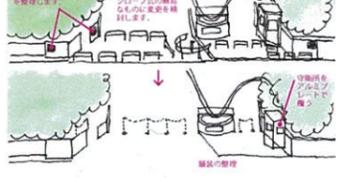
■おおらかなカーブで透明感のある立面は人々を招き入れます【親しみやすさ】

口やわらかなかたち
・キャンパスはミニマルな四角い建物、直線のできた建物や塀が多い。門を塀の延長ではなく、誰もを受け入れるような、かわらかなかたちのゲートをつくりたい。



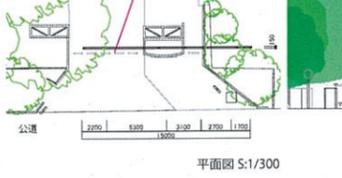
■部分を整えることで、清々しいキャンパスの新ゲートをつくり出す【正面性】

自転車ゲート、段差、舗装、禁止サインなど、場当たりの補修ではなく、部分を整えることで、環としたゲートをつくりたい。



■キャンパスの森と呼吸したゲート

自然と人工物を繋ぎ合わせるようにゲートが呼吸します。自然と人工物を繋ぎ合わせるようにゲートが呼吸します。自然と人工物を繋ぎ合わせるようにゲートが呼吸します。



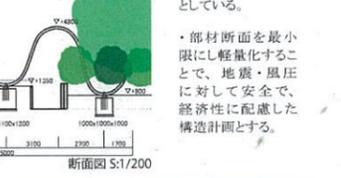
■豊かな森と校舎が一体となった森の中のキャンパス【構造計画】

・高さ約10mのゲートは、鉄骨鋼管を採用し、地震時の部材のねじれを抑えるため、BOX鋼管としている。
・部材断面を最小限にし軽量化することで、地震・風圧に対して安全で、経済性に配慮した構造計画とする。



■豊かな森と校舎が一体となった森の中のキャンパス【構造計画】

・高さ約10mのゲートは、鉄骨鋼管を採用し、地震時の部材のねじれを抑えるため、BOX鋼管としている。
・部材断面を最小限にし軽量化することで、地震・風圧に対して安全で、経済性に配慮した構造計画とする。



森のみんなの広場

私たちは、バス待合に限定された場所ではなく、多様なキャンパスアクティビティを受けとめるプラットフォームとなるおおらかな屋根を提案します。



広場を正面より見る

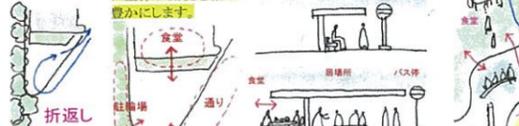
■さまざまなキャンパスアクティビティを許容する「おおらかな屋根」をつくり出す【キャンパス固有の機能】

キャンパス内を走る現相数バスは、ワンストップタイプで最大78名が乗車できるバスが運行しています。まちのバス停は、1箇所から大人数が乗ることが少ないため、4m程度の長さのバス停が主ですが、キャンパスでは、授業のタイムズ等により集中乗車人数が多いことが特徴です。つまり、バス停は、普通のサイズだとほとんどの人が屋根からはみ出てしまいます。ここでは、様々なキャンパスアクティビティを許容するおおらかな屋根をつくりたい。



■この場所らしい豊かさにかたちを沿えます【多様性】

キャンパスバス停の観察からわかるこの場所の特徴にかたちを沿えます。
1) バスの折返しに沿ったかたちをつくりたい。
2) 食堂テラスや駐輪場と一体化した居場所となるように関係性をつくることで、より全体の環境を継ぎ合わせたい。



■ランドスケープのように屋根により居場所をつくり出す【周辺環境との調和】

・屋根は表裏をつくらないよう、蛇行しながら隣接する食堂テラス等と呼ぶように居場所をつくりたい。
・白い屋根は光を反射し明るい屋根下空間をつくりたい。
・屋根は、通りの北側、南側、食堂、駐輪場といろんな場所から見られますが、それぞれ違う豊かな立面が現れます。



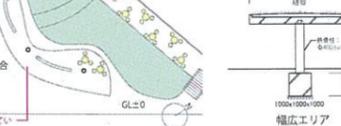
■やわらかで力強い屋根がつくるみんなの待合場

表裏の両面に、太陽光発電パネルを設置し、屋根下空間を明るくします。また、屋根の構造は、地震時の揺れに強い構造とします。



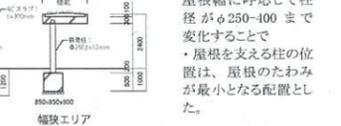
■状況に合わせた柔軟な計画

工業やキャンパスデザインの状況に応じて柔軟に工期を分けて段階的につくりたいことを考えたい。



■災害時の拠点にもなります【防災】

災害時に地域開放し、食堂と連携して放出などの拠点となることのできる屋根のある広場をつくりたい。



■豊かな森と校舎が一体となった森の中のキャンパス【構造計画】

・屋根は梁が見えないRCフラットスラブとし、柱はS造りとする。柱はS造りすることで、〇〇な構造とした。
・場所により変化する屋根幅に呼応して柱径が250-400まで変化することで、屋根を支える柱の位置は、屋根のたわみが最小となる配置とした。

